（別紙様式４－１）　　（県立高等学校・中学校用）

（　人吉高等学校　定時制課程　　）学校　令和２年度（２０２０年度）学校評価表

１ 学校教育目標

本校の綱領「礼節」「勤労」「進取」の精神を念頭に、全職員一体となって愛情と信頼を基調とした教育を実践し、心豊かで調和のとれた社会に貢献できる人材の育成を図る。
教育スローガン「磨き　鍛えん　青春の志高く」

２ 本年度の重点目標

熊本県教育委員会から示された「令和２年度（２０２０年度）県立中学校・高等学校における教育指導の重点」の趣旨に沿い、全職員が一丸となり、本校定時制に学ぶ生徒たちの現状を踏まえ、以下の項目の実現に努める。
（１）授業改革・確かな学力の育成（２）生徒指導の徹底・基本的生活習慣の確立（３）キャリア教育の充実・進路保障（４）学校行事の活性化（５）授業改善・生徒と向き合う時間の確保・働き方改革の推進

３ 自己評価総括表

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	学校経営方針	学校教育目標の達成	学校に対する高い信頼が寄せられている状態	①学校の教育活動を公開する機会を増やし、積極的に情報発信する。 ②学校の取組に対する意見や要望等を寄せやすい仕組みづくりを進める。	B	【成果】初めて「夜のｵｰﾌﾟﾝｽｸｰﾙ」を開催し、中学生、保護者、中学校教員が参加し、定時制の今の学びへの理解を深めることができた。学校HPには「楽しくNight」ｻｲﾄを開設し、週２回以上のﾍﾟｰｽで学校の様子を発信した。地元新聞社には、行事の度に取材依頼を重ね、昨年度以上に教育活動の様子を掲載していただいた。本校職員への信頼度に関する保護者ｱﾝｹｰﾄ結果は3.9ﾎﾟｲﾝﾄと高い評価をいただいた。 【課題】コロナ禍で当初予定していた教育活動公開の場が設定できなかった。
		魅力ある学校づくり	入学志願者が増え、転退学者がいない状態	①在籍する生徒が誇りを抱く教育活動を全教科・全領域において展開する。 ②学校行事の際などに、活躍する生徒の姿を見てもらう機会を数多く設ける。	C	【成果】新たに取り組んだ総合的な学習／探究の時間「人定MyRevoﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ」では、生徒が自己肯定感を持てる活動となった。人定祭は、コロナ禍のため生徒の家族のみ来校可能としたが、多くの参加があった。 【課題】生徒が誇りを抱く教育活動を必ずしも全領域で展開できたわけではない。
	教職員の資質向上	教職員の指導力向上	職員が指導力向上のために自己研鑽に努めている状態（不祥事ゼロの状態）	①校内における会議等をＯＪＴとして位置づけて実施する。 ②校外の研修等への参加などＯｆｆ－ＪＴにも積極的に取り組む。	A	【成果】業務の隙間時間を活用してできる動画研修を２度実施した。複数の職員が先進地視察や学校情報化指導者研修、教科研修等に参加し、研修成果を全職員に還元することができた。五木分校と

						の合同職員研修会を初めて実施し、指導力向上に努めた。資質向上に関する職員ｱﾝｹｰﾄ結果は昨年度より0.2ﾎﾟｲﾝﾄ上がった。 【課題】コロナ禍のため、当初予定の研修が中止やｵﾝﾗｲﾝへの変更で、研修機会が十分ではなかった。
	業務改善	生徒と向き合う時間増加	ｽｸﾗｯﾌﾟ＆ﾋﾞﾙﾄﾞ及びICT活用で仕事効率がこれまでより上がった状態	①ICTを積極的に活用したり、データを共有化したりして業務効率を高める。 ②スクラップ＆ビルドを進めるとともに各人の業務の平準化を進める。	B	【成果】年度当初から校務分掌や教育活動に様々なICTを導入し、職員ｱﾝｹｰﾄでは、91.7%が昨年までより仕事効率を上げる工夫に努めていると答えている。 【課題】成果の反面、業務の平準化には至っていないので、今後も改善に努めたい。
	働き方改革	時間外勤務の削減・年休取得率向上	職員がストレスを軽減し、心身ともに健康な状態で教育活動に当たっている状態	①会議や打合せの整理・削減や事前の会議資料配付を行う。 ②年休が取得しやすい雰囲気作りや行事予定表作りを行う。	B	【成果】昨年度より年休が取得しやすい体制となり、仕事のｵﾝｵﾌがはっきりできたと答えた職員の割合が、83%であった。今年度は、ｼﾌﾄ変更等を実施し、負担軽減が図れた。 【課題】部署によっては、議題が多く、会議時間が長くなる傾向にあった。
学力向上	授業改革	授業の改善	生徒が意欲を持って主体的に授業に参加している状態	①生徒が「学びのおもしろさ」や「学ぶ意義」を感じ「達成感」を味わう魅力ある授業づくりに取り組む。 ②テーマを絞った研究授業と合評会を実施し、授業の改善に取り組む。	B	【成果】コロナ禍での臨時休校期間におけるICTを活用した学習保障、「ICTを活用した主体的・対話的で深い学びの実現」を統一ﾃｰﾏにした公開授業週間の取組を通して、職員のICT活用のｽｷﾙｱｯﾌﾟや授業改善が進んだ。 【課題】授業改善の成果が、生徒の興味・関心の喚起にまでは及ばなかった。
	学習評価の改善	テスト問題の改善	テスト問題の質が向上し、客観性が高まった状態	①外部評価問題等との関連を図った作問に取り組む。 ②思考力や判断力を評価する作問を工夫する。	B	【成果】年度当初から取り組んでいる教頭との考査問題協議や、観点別評価方法に合わせた作問研究が、生徒の学習成果を適切に評価できるﾃｽﾄ問題づくりに大きく寄与した。 【課題】生徒の定期考査への取組の不十分さが否めない。考査１週間前にもかかわらず、学習時間が60分未満の生徒が半数以上いる。
		指導と評価の一体化	学習評価の在り方について工夫・	①観点別評価やポートフォリオ評価について研究を進める。	A	【成果】他校に先んじて観点別評価の仕組みを整備し、今年度から

			改善がみられる状態	②シラバス帳の活用を通して単元や内容のまとまりごとの評価方法を研究する。 ③個に応じた適切な評価の在り方を研究し実践する。		全ての教科で実施できたことで、県下でも先駆け的取組となった。 【課題】今後はそれぞれの観点で、適切に評価できているかの検証と研究が必要である。
キャリア教育（進路指導）	キャリア発達	基礎的・汎用的能力の育成	年次に応じた将来展望と実現に向けた努力がなされている状態	社会的・経済的自立に向けた情報提供や体験の機会を数多く設け、職業観・勤労観を育む。	B	【成果】休校があったが、生徒一人一人と進路面談を２～３回実施し、生徒に合った情報提供や指導ができた。 【課題】コロナ禍でｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟや企業見学が中止となり、職業観・勤労観の育成が十分できなかった。
	進路目標の達成	進路実現力の育成	進路実現に必要な力が向上している状態	①学校を中心とした生活習慣を確立させ、出席率を向上させる。 ②生徒の進路志望に応じた必要な手立てを検討し、実践する。 ③外部テスト等の客観的な指標を活用し、実力を評価する。	B	【成果】学びの基礎診断ﾃｽﾄや模擬試験の結果をもとに、個別に面談や指導を実施することができ、生徒の進路に対する意識を向上させることができた。 【課題】今後は、人定としての進路ｼﾗﾊﾞｽや個別のﾛｰﾄﾞﾏｯﾌﾟを作成・活用し、生徒が進路目標を定めるよう具体的な手立てを行う必要がある。
		進路保障	卒業予定者全員の進路が決定した状態	①定期的に生徒の進路状況について検討会を設け、必要な手立てを講じる。 ②生徒の適性等をふまえ、進路情報の提供や進路希望先訪問等を促す。	B	【成果】卒業予定生徒全員が目標とする進路を実現できた。 【課題】今後は、ｷｬﾘｱﾊﾟｽﾎﾟｰﾄを活用しながら、生徒が明確な進路目標を持って行動できるよう適性等を踏まえて適切な情報提供を行っていく必要がある。
生徒指導	個性の伸長	生徒理解の深化	生徒の特性や能力（可能性）などが把握され、尊重された状態	①あらゆる機会を捉えて生徒の特性や能力等を見いだすことに努める。 ②生徒情報の交換・共有の機会を年間を通じて設け、生徒の可能性を伸ばす手立てを講じる。	B	【成果】毎週末生徒情報連絡会を実施し、全職員が常に生徒の状況を把握し、生徒に対してきめ細やかな対応ができた。 【課題】今後は、さらに生徒の可能性を伸ばす手立てを講じる必要がある。
	自己指導能力の育成	自己肯定感の高揚	生徒の自己肯定感が高まった状態	①生徒のよさを見いだし、認め、褒め、励ます教育実践に努める。 ②一人ひとりの生徒に応じて適切な課題を設定し、スモールステップで課題を乗り越えさせ、数多くの成功体験を積ませる。	B	【成果】人定祭で各ｸﾞﾙｰﾌﾟで生徒一人一人に応じた目標設定や取組を行うことができた。 【課題】成功体験をより高めるため次年度は普段の学習成果を生徒が発表できる場面をさらに設定していく。
		自己決定力の育成	生徒が自己実現に向けて前進している状態	①様々な教育活動の場面で、生徒に選択させる機会を設ける。 ②生徒が主体的に生徒会活動を行うことがで	B	【成果】新型コロナの影響がありながらも、ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ活動など新しい取組が実施できた。 【課題】次年度も行事

				きるよう支援する。		・授業などで生徒が自ら課題や目標を選択する場面を設定し自己決定力を育成する必要がある。
人権教育の推進	人権尊重	人権を尊重する意識の高揚	互いに人権を尊重し合っている状態	①定期的に「人権便り」を発行する等積極的に人権問題の啓発を行う。 ②日常の授業のなかに人権意識を高めるための計画を盛り込み、教育実践交流の機会を増やす。	B	【成果】「心のきずなを深める」「人権教育推進」各月間で、北朝鮮拉致問題、コロナ差別、性同一性障害に関する学習を実施した。 【課題】合同LHR及び職員研修の年間計画を更に練る必要がある。
	生命尊重	生命を尊重する意識の高揚	生命を大切にする態度や行動が見られる状態	①それぞれの授業のなかで、生命尊重に関する話題を適宜取り上げる。 ②健康教育や防災教育などの取組に併せて命を大切にする意識付けを図る。	B	【成果】薬物乱用防止講座や地震避難訓練の取組で、危機に対して生命を守る意識を高めることができた。 【課題】他人を思いやる気持ちを更に高める必要がある。
いじめの防止等	いじめの早期発見	いじめの認知と対処	いじめが適切に認知、対処された状態	①日常的な生徒観察と定期的な生徒情報の交換・共有とともに、アンケート等を活用していじめの早期発見につなげる。 ②万一、いじめ事案が発覚した場合は、基本方針に沿って迅速に対応する。	B	【成果】毎週の生徒情報連絡会で個々の生徒状況を共有できた。心のｱﾝｹｰﾄや担任面談を実施し、いじめゼロを継続した。 【課題】授業担当者が授業中の生徒の言動に今後も注意を払う。
	いじめの未然防止	望ましい人間関係づくり	生徒が互いに思いやり、尊重し合っている状態	①生徒会による「いじめゼロ宣言」を行い、ＨＲに掲示するとともに、毎学期の始業式時等に確認する。 ②ＳＮＳの使い方など情報モラル啓発資料を配付し、思いやりや互いを尊重する心を育む活動を行う。	B	【成果】合同SHRを定期的に行ない、「心のつながり」をつくることに努めることができた。合同LHRや総学・総探の時間においては、生徒の学年を越えた「心の繋がり」を作ることに取り組むことができた。 【課題】生徒会による「いじめゼロ宣言」を年間計画通りにきちんと実施する必要がある。
地域連携（ｺﾐｭﾆﾃｨ･ｽｸｰﾙなど）	社会に開かれた学校づくり	総合型コミュニティスクールの推進	総合型ＣＳとして教育目標等が地域と共有された状態	①学校運営協議会を通じて、学校に対するニーズや課題等を把握する。 ②各種教育活動の実施の案内や各種学校便りの発行及びＨＰ掲載を通して情報発信を行う。	B	【成果】情報発信においては「安心・安全メール」「人定便り」学校HP「楽しくNight」等、様々な形で教育活動を発信できた。学校運営協議会においてはコロナ禍及び豪雨災害対応の中、地域の要職の方々が参加し、実態に即した協議ができた。 【課題】各委員から学校に対するニーズ等の踏み込んだ点まで把握ができなかった。
		保護者との連携	保護者が活発に学校行事等へ参加している状	①年間スケジュールを見通して、保護者への行事参加の呼びかけをできるだけ早く行う。	B	【成果】人定祭への保護者参加の呼びかけが例年に比べて遅くなってしまったが、当日は

			態	②学級通信等を活用し、保護者への情報提供を密に行う。		多くの生徒の家族の参加があった。 【課題】公開授業の保護者参加は昨年度より増えたが、今後も増やす工夫を行う必要がある。

4　学校関係者評価

・自己評価は、ずいぶんと厳しめに付けてある。自らを引き締める意味合いがあるのかもしれないが、行われてきた教育活動は十分Ａ判定だと言える。
・生徒情報連絡会での生徒の日常の変化等を共有する取組、合同ＳＨＲでの学年問わず一体感をつくる取組、いずれも高く評価できる。
・定時制の生徒会も全日制に負けず劣らず、いい活動をしている。
・広報で学校の様子を多く発信しているので、学校の様子がよくわかるようになり、定時制のイメージが変わった。
・ダブルスクールで頑張っている生徒等もいる等、生徒が将来をしっかりと考えて、楽しく学習に取り組んでいる様子が分かり、大変明るい印象を受けた。個々の学び方は、いろいろな方法があると思うので、これからも大いにアピールして欲しい。
・生活体験発表大会厚生労働大臣賞を受賞した生徒の作文は大変素晴らしいものだった。
・学年によって、家庭学習時間に大きな差があるようだ。
・人権教育によく取り組んでいる。北朝鮮拉致被害者問題、コロナ差別、性同一性障害等、新しい人権問題にも積極的に取り組んでいて、人権を重視している姿勢が評価できる。
・今後も地域から学校に協力できることがあれば、遠慮無く要請してほしい。

5　総合評価

今年度は、コロナ禍のため学校行事、対外行事が中止・変更される中、可能な限りで、新たに取り組んだ様々な学校改革が、学校内（生徒・保護者・職員）及び地域の方々に認められ、一定の評価を得た形となった。

内側では、授業改革に努め、職員の校内及び校外での研修によって授業力向上に繋がった。特に全職員で取り組んだＩＣＴ活用の研究授業・合評会、探究学習や生徒募集に関わる先進地（広島県立加計高校）視察研修・報告会、そして兄弟校である五木分校との初の合同職員研修は、職員の授業改善への意欲向上に繋がるとともに、生徒の学習内容理解向上にも繋がった。働き方改革については、昨年度より仕事のオンオフがはっきりできたと回答した職員が８割超で、職員の働き方に関する意識改革も進んだ。

外側に向けては、これまで十分に取り組めていなかった定時制の教育活動に関する広報を活性化させることができた。従来からの各種学校便りの発行に加えて、学校ホームページ、安心メールの活用を始めた。地元新聞社への取材依頼も重ね、人定の記事が数多く掲載された。更に初の試みとなった地域人材を活用した探究活動、夜のオープンスクールは、地域の方々や中学生・その保護者、そして中学校職員に人定の今の学びを深く理解してもらう絶好の機会となった。結果、入学者選抜試験出願者数が昨年度より増加した。

全国定時制通信制生活体験発表大会において、厚生労働大臣賞を受賞した生徒が出たのも、職員が一丸となって、定時制生徒の教育に当たってきた一つの成果だと考える。

以上、自己評価及び学校関係者からの評価を謙虚に受け止め、次年度も学校が直面する課題に対して積極果敢に挑戦し、学校改革の歩を停めず邁進して参りたい。

6　次年度への課題・改善方策

（１）学校経営について

【課題】

生徒アンケートで２割弱が本校生徒であることに誇りをあまり持てていないと回答している。「在籍する生徒が誇りを抱く教育活動を全教科・全領域で展開する」と掲げた高い目標に少しでも近づく必要がある。

【方策】

学ぶ姿勢の大切さを、各教科の授業内でふれながら、人定での学びに誇りが持てるよう努めていきたい。

（２）学力向上について

【課題】

総じて学習時間が少なく、家庭学習の習慣がなかなか定着しない。自ら学ぶ意欲を高める必要がある。

【方策】

「授業の改善」における改善方策としては、クロスカリキュラムによるシラバスの構築を行

い、学習内容が生活や他教科の学習に活きるということを実感させ、生徒の興味・関心の喚起につなげていきたい。また、「テスト問題の改善」における改善方策としては、考査１週間前にテスト勉強の計画を立てさせ、学習時間の記録を励行させることで、テストに対するモチベーションアップを図っていきたい。そして、「指導と評価の一体化」における改善方策としては、校内研修や五木分校との合同研修の機会等を通じて、観点別評価の事例を共有し評価方法の研究を行っていきたい。

（３）キャリア教育（進路指導）について
【課題】
人定としての進路シラバスや個別の進路実現ロードマップを作成・活用し、生徒が進路目標を自ら定められるようにする必要がある。
【方策】
次年度新たに策定する人定進路シラバス（４カ年・３カ年）にしたがって、キャリアパスポートを本格活用し、生徒自らが自身の進路について考え、選択していく指導を行う。特に担任・進路指導主事は、生徒の夢開拓、夢実現に向けて進んでいく伴奏者としての役割を果たしていく。

（４）生徒指導について
【課題】
学校と就労の両立を目指す生徒への支援を、系統的にかつ計画的に行っていく必要がある。
【方策】
就労と学習の両立ができていない生徒、もしくは就労することによって生活改善ができそうな生徒、生徒個別の状況に応じて、面談等を通じて支援していく。同時に、就労先にも定期的に訪問して、就労状況の把握を行い、就労先と連携して生徒の人間的成長を促していく。

（５）人権教育の推進について
【課題】
生徒の人権学習、職員の人権研修の年間計画をしっかり立てて実施し、その評価も行い、次に繋げられるような人権学習の体制を整える必要がある。
【方策】
熊本県の主な人権課題である、同和問題、水俣病をめぐる人権、ハンセン病回復者等の人権、北朝鮮拉致問題の４つに加えて、性同一性障害やコロナ差別、外国人労働者の人権など、新しい人権問題について、系統的・計画的に学習、そして振り返りを行い、人権学習のＰＤＣＡサイクルを整える。

（６）いじめの防止等について
【課題】
学校いじめ防止基本方針が今年度末に改訂されたので、それを全職員が熟知し、万一のことが起きても即応できるようにする必要がある。
【方策】
授業担当者が授業中の生徒の言動に注意を払い、いじめの未然防止に努めていくことはもちろんのこと、常に危機感を持って事案に対応できるように、新しい学校いじめ防止基本方針、重大事態対応マニュアルの職員研修を実施する。

（７）地域連携（コミュニティ・スクールなど）について
【課題】
地域から人定に対するニーズや要望を把握する必要がある。
【方策】
今年度、学校の情報発信は大幅に改善ができたので、繋がりができた地域の方々から、情報を収集する方策を見つけ出す。たとえば、人定MyRevoプロジェクトの地元理解研修を活用して、生徒だけでなく職員も、地域の方々から人定に対するニーズや要望を聴取していく等が考えられる。